



第60回

# 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 山口大会

大会主題

見ちよる 聞いちよる 話しちよる  
子供の明日 無限の未来  
～親子の絆が "ふく" を呼ぶ～

シンボルマーク

- 1 ..... 力強く手をつないで  
いる全国の意
- 2 ..... 幼稚園・こども園の意
- 3 ..... PTAの意

元牛深市立深海幼稚園園長 蓼田浩 作



全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会

全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会の  
会員がしっかりと手をつなぎ、この会の発展、充実  
をめざして協力し合う姿を表したものである。

日 時

令和4年8月6日(土) 13時00分 開会

開催方法

オンライン配信

配信元会場 下関市生涯学習プラザ  
海のホール

# 第60回 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 山 口 大 会

◎ **大会主題** 見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来  
～親子の絆が "ふく" を呼ぶ～

◎ **主 催** 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会  
山口県国公立幼稚園・こども園PTA連合会

◎ **共 催** 山口県国公立幼稚園・こども園連盟

◎ **後 援** 文部科学省 全国国公立幼稚園・こども園長会  
山口県 山口県教育委員会 下関市 下関市教育委員会  
山口市 山口市教育委員会 周南市 周南市教育委員会  
岩国市 岩国市教育委員会 長門市 長門市教育委員会  
光 市 光市教育委員会 平生町教育委員会  
山陽小野田市 山陽小野田市教育委員会

◎ **開 催 日** 2022(令和4)年8月6日(土)

◎ **開催方法** オンライン配信  
(配信元会場) 下関市生涯学習プラザ 海のホール  
〒750-0016 山口県下関市細江町3-1-1  
電話 083-231-1234

## ◎ 日 程

13:00	13:10	13:30	13:45	14:45	15:45	16:15	16:30
オープニング	開会式	総会 (理事会報告)	記念講演	提案発表	指導・助言	閉会式	

◎ オープニング 平家踊り（本村小学校 平家踊りを受け継ぐ子の会）

## ◎ 開 会 式

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 会長 山崎 篤史
3. 来賓祝辞 文部科学省 総合教育政策局 局長 藤原 章夫 様
4. 山口 県 知 事 村岡 嗣政 様
5. 下 関 市 長 前田 晋太郎 様
6. 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美 様
7. 大会宣言 山口大会実行委員会 実行委員長 板井 佑介
8. 表彰紹介
9. 閉会の言葉

◎ 総 会（理事会報告）

## ◎ 記 念 講 演

- ・ テーマ 人生何が起きるかわからない ～太蔵流 チャンスをつかむ技術～
- ・ 講 師 杉村 太蔵 様（タレント・実業家／元衆議院議員）

## ◎ 提 案 発 表

1. 兵庫県 姫路市立飾磨幼稚園 令和元年度PTA 会長 宗實 真紀 様  
地域で育む子育てを目指して  
～ 長年培ったべっちょない子育て ～
2. 島根県 安来市立安来幼稚園 令和4年度PTA 会長 小山 稔 様  
コロナ禍におけるPTA活動の在り方と工夫  
～ 子どもたちの笑顔のためにできること ～
3. 香川県 香川大学教育学部附属幼稚園 令和4年度松韻会幼稚園 副会長 河野 康子 様  
みんなで育てるこどもの力 『自分でTry ふぞくっ子』  
～ 一人一人の個性を活かして ～

## ◎ 指 導 ・ 助 言

- ・ 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室 室長補佐 山本 健司 様
- ・ 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美 様

## ◎ 閉 会 式

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 会長 山崎 篤史
3. 実行委員長挨拶 山口大会実行委員長 板井 佑介
4. 次期開催地挨拶 大分大会運営委員長（全幼P 副会長） 清松 督雄
5. 閉会の言葉



## ごあいさつ

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

会長 山崎 篤史

吉田松陰先生曰く、「学は人たる所以を学ぶなり」。

今、教育・PTAに携わるすべての大人が、心に刻むべき言葉であるような気がしています。この現代日本の礎を築いた山口の地を冠する、第60回国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会が、現況のコロナ禍を考慮しつつ開催できることに最大の感謝の意を表したいと思います。また、日頃より学校教育の一環である幼児教育とPTA活動に多大なるご尽力を賜っております、この冊子を手に取りご高覧いただいております皆様に、衷心より御礼を申し上げます。

ウィズコロナ、アフターコロナの風潮が感じられる中、それでも子どもたちの健やかな成長を第一に願う私たちにとっては、心配りを切らせてはならない緊張の日々を送られていることと存じます。誰もが想像し得なかった感染症の世界的な影響に加え、ヨーロッパにおいては、政情が不安定になる事態が発生しています。グローバルな事象の影響を受け、日常生活においても生活様式や物価等、急激な変化を遂げています。変化の激しいこの時代を、力強く生き抜いていく能力を育み繋いでいくことが焦眉の課題といえます。世界的な感染症や政情の影響を受けて、私たちの身近な生活が影響を受けているということは翻って、冒頭の松陰先生の言にあるとおり、今こそ学(教育)をもって社会に貢献することの重要性を個々から再認識することにより、私たちの日々携わっている幼児教育の現場から、世界を変える子どもたちが生まれていくことに繋がっていくのだろうと感じています。

そのためにもPTAが、未来に繋げていかなければならないことの一つに「親の学」があります。園から郡市、区へ。さらに都道府県組織へ、全国へ。小さな集まりから大きな社会へ、地域から世界へ。子どもたちの未来の可能性を育むためには、支える側の私たちPTA組織も、いろいろな地域でいろいろな立場で、大きな視野で子どもたちの未来を協議できる場所が必要です。そして、その場所の一つが正に、この全国大会であると確信しています。

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、大会主題に「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～」を掲げ、山口の心、仲間たちの想いを全国へ発信します。今回も感染症の影響を鑑みオンライン開催となりますが、山口県下関市を中心とする地元のお仲間と本会役員は参集する予定です。段階的に対面の機会を広げ、一日も早くアフターコロナの時勢に沿いたいと考えています。

本大会を開催するにあたり、多大なるご支援ご厚情を賜りました文部科学省をはじめ山口県、下関市および教育委員会関係の皆様、また、山口県国公立幼稚園・こども園PTA連合会と幼稚園・こども園連盟の皆様、板井佑介実行委員長をはじめとする山口大会委員の皆様、オンライン開催にあたりご尽力賜りました皆様、すべての皆様に最大の感謝をお伝えするとともに、この瞬間にも逆境にある全国の仲間たちのもとへ、PTAの愛が届きますよう心からお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



## ごあいさつ

第60回 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

山口大会 実行委員長 板井 佑介

『みんな! きてね!! まつとるよ!!!』

昨年度の新潟大会における次年度開催地PR動画では、子供達から皆様へ元気よく呼びかけをしてきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、悔しくも皆様と直接お逢いすることは叶いませんでした。

しかしながら、山崎会長を初めとする、全国で活躍されるPTA猛者達のアツイ想いにより、山口大会はYouTubeでのオンライン配信という新しいスタイルでの開催を迎えることが出来ました。本当に心の底から嬉しく感じております。

振り返ってみても、近年はコロナ禍により殆どの行事やイベントが延期や中止、または規模を縮小しての実施となってしまいました。しかし、そんな状況下でも、不屈の精神を持った皆様は、新型コロナウイルスを言い訳にせず、日々「子供達の明日のため。明るい未来のため。今、出来ることは何なのか?」と自問自答し、試行錯誤を繰り返しながら、PTA活動を推進されていることと存じます。その勇姿は、直接見ずとも想像に容易く、私も皆様に背中を押される形でPTA活動に邁進しております。

今年度の開催地である山口県は、本州の最西端に位置し、その山口県の中でも更に最西端に位置するここ下関市は、豊かな自然環境に恵まれ、また、多くの歴史遺産も有する『歴史と海峡のまち』です。下関には、「源平壇ノ浦の合戦」、「巖流島の決闘」、「明治維新」と、日本の歴史が動く”時”の舞台となっており、その史跡も多く存在しております。そんな環境の中で子供達は、伸び伸びと知見を広げ、感性を育むことができいております。

本大会では、「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～」をテーマとして掲げました。見る・聞く・話すを「～ちよる」という山口県のチャーミングな方言で表現しておりますが、これは、子供と子供、子供と大人、それぞれが見る・聞く・話すことで子供達の生きていく力を育むことができるんだという想いからです。

また、下関ではふぐ(河豚)のことを幸福の”福”にかけて「ふく」と呼んでいるのですが、特に親子や保護者同士の繋がりを通して、子供達の明るい未来に「ふく(福)」が訪れますようにという願いもサブテーマに込めました。

結びとなりますが、このようなPTA活動を維持、運営していくためには、会員の皆様のご協力が必要不可欠となります。全ての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられる環境の構築に向けて、今後ともお力添えいただけましたら幸いです。

私も微力ではありますが、皆様の格別のご支援を賜りながら子供達の健やかな成長のため、そして全国の幼稚園・こども園の更なる発展のために、このPTAを益々盛り上げていく所存です。引き続き宜しくお願ひ致します。

またいつか、皆様と直接お会い出来る日を心待ちにしつつ、実行委員長としての挨拶とさせていただきます。



## ～祝 辞～

山口県知事 村岡 嗣政

このたび、「第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会」が、盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃からそれぞれの幼稚園・こども園、家庭や地域において、子どもたちの健やかな成長と、幼児教育の振興を願い、熱心にPTA活動を展開しておられることに、深く敬意を表します。

さて、この2年間、新型コロナウイルスの影響により、本県においても、県づくりの様々な取組が足踏みする中、デジタル化をはじめとする社会変革や気候変動問題への対応など、県政を取り巻く環境が大きく変化してきました。

このため、私は、現下の環境変化をしっかりと踏まえ、本県の新たな未来に向け、これまで取り組んできた「産業維新」、「大交流維新」、「生活維新」の「3つの維新」をさらに進化させ、「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に全力で取り組むこととしており、本年中を目途に、その指針となる新たな総合計画をとりまとめることとしました。

新たな計画においても、「地域教育力日本一」の取組や「やまぐちスマートスクール構想」の推進など、新たな時代に向けて、多様な主体が連携を図りながら、ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」をもって、地域や社会の課題を自ら発見、他者と協働しながら解釈し、新たな価値を創造できる人材の育成に引き続き取り組むこととしています。

こうした取組を進めるうえで、幼児期は家族や地域の方からの深い愛情や温かいふれあいを受けて、豊かな人間性や社会性が生まれ、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大切な期間です。子どもを取り巻く多くの関係者が連携し、社会全体で幼児期の教育に関わっていくことが求められます。

こうした中、国公立幼稚園・こども園のPTA活動を力強く牽引される全国の皆様も、新型コロナウイルスの影響下においても、対面とオンラインのハイブリッド開催により、幼稚園・こども園の諸課題の解決に向けて、協議や情報交換を行うことは、大変意義深いものです。

本大会の成果が、ここ山口の地から全国に発信され、家庭や地域の教育力の向上とPTA活動のさらなる充実につながることを、心から期待申し上げます。

山口県は、三方を海に開かれた本州最西端の県です。豊かな自然が織りなす絶景や、歴史の舞台にもなった数多くの史跡、また県内いたるところに個性豊かな温泉や各地域のグルメがあり、多くの旅行者にお喜びいただいております。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きましたら、是非、魅力あふれる山口県へお越しいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた皆様に、改めて敬意を表しますとともに、我が国の次代を担う子どもたちの輝ける未来と、本日御参加の皆様方の御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。



## ～祝 辞～

山口県教育委員会  
教育長 繁 吉 健 志

第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

皆様方には、平素からそれぞれの幼稚園・こども園、家庭、地域において、次代を担う子どもたちの健全育成や教育環境の向上をめざし、創意あふれるPTA活動を展開されておられることに対し、深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

さて、Society5.0時代の到来やグローバル化の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大による新たな生活様式への対応など、教育を取り巻く環境が急激かつ急速に変化する中で、教育には、子どもたち一人ひとりが自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、主体的に未来を切り拓いていく力を育成することが求められています。

このため、本県では、全国に先駆けて県内全ての公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に導入したコミュニティ・スクールを核とし、山口県独自の「地域協育ネット」の仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの育ちや学びを支援する「やまぐち型地域連携教育」を推進し、「人づくりと地域づくりの好循環の創出」をめざして、本県ならではの地域連携教育の取組の充実を図っているところです。

とりわけ、就学期につながる乳幼児期における教育及び保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、小学校以降の生活や学習の基盤となるとともに、人生100年時代において必要とされる、生涯を通じて自ら学び続ける力の育成に重要な役割を果たすものです。

そのため、県教委では、令和3年4月に「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」を設置し、乳幼児期の教育及び保育の質の一層の向上を目的として、保育者への研修や調査研究、幼児教育・保育施設に対する助言、情報提供等の施策を総合的に実施しています。

こうした中、国公立幼稚園・こども園におけるPTA活動を牽引される全国の皆様が、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される中でも、オンラインではありますが、一堂に会して、幼稚園・こども園の教育及び保育の充実に向けて、諸課題を協議し、その解決・改善に取り組まれていることは、大変意義深いものです。

本大会の成果が、ここ山口の地から全国に発信され、PTA活動の更なる活性化と、家庭や地域における教育力の向上につながることを、心から期待申し上げます。

結びに、本大会の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、本大会の御成功と御参加の皆様のご健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。





## ～祝 辞～

下関市長 前田 晋太郎

本州最西端、海に開き、緑に抱かれ、美味が集う海峡都市・下関の地から、第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の皆様におかれましては、すべての家庭が安心して子育てができ、育てる喜びを感じられる環境構築のため、日々活動を推進されておられることに深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。記念講演や提案発表等を通じて、ご参会の皆様が幼児教育の未来について学びや思いを共有され、実り多き時間となることを願っております。

さて、下関市においては、活力に満ち、市民の皆様が夢を語り、希望を叶えることのできる「希望の街・下関」の実現を目指しており、未来を担う子どもたちの育成支援や教育の充実を図ることを重点施策として位置付け、まちづくりの根幹である「人づくり」に取り組んでいます。とりわけ就学前施設については、市立園においては幼保連携型認定こども園への移行を進めるとともに、私立園に対しては施設設備等の支援を行うなど、ソフト・ハード両面から、子どもや保護者の状況やニーズに応じた保育環境づくりに努めているところです。

家庭教育はすべての教育の出発点とされています。各家庭における心豊かで安心安全な生活が土台となつて、子どもたちは園や地域で元気に活動することができます。しかしながら、コロナ禍によって子育てに不安を抱える家庭が増加していることも事実です。目まぐるしく変化する生活環境の中において、子育てに不安を抱える家庭へ細やかな育児支援を行っていかねばなりません。どのような境遇に置かれている子であっても健やかに成長できる取組を支援してまいります。皆様との連携を密にし、幼児教育の充実や家庭・地域の教育力の向上を図ることで、子どもたちの成長を支え続けたいと思いますので今後ともお力添えいただきますようお願い申し上げます。

結びに、本大会が主題「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が”ふく”を呼ぶ～」にもあるように、新たな人と人とのつながりを生む契機となるとともに、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の益々のご発展と、参会の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





## ～祝 辞～

下関市教育委員会

教育長 見玉 典彦

第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会(オンライン開催)が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、平素からPTA活動を通じて、保護者同士のつながりづくりや子どもたちの健全育成に向けた活動の推進にご尽力いただいていることに深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

さて、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会報に、本大会の主題「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～」に込められた思いが掲載されていました。「子どもと子ども、子どもと大人、それぞれが見る・聞く・話すことで子どもの生きる力を育むことができる。(中略)保護者同士のつながりでの情報共有や連帯感を通して、子どもの明るい未来に『ふく(福)』が訪れるようにという願いを込めている」とのことでした。

下関市教育委員会では、地域学校協働活動を推進しています。地域学校協働活動とは、「地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」のことです。この活動を通じて、子どもたちのふるさとへの誇りと愛着を育むとともに、地域住民同士のつながりを大切にしたい地域づくりへの意識が高まることを期待しています。

「つながりづくり」を考える上で、もうひとつ大切なつながりが、幼保小のつながりです。既にいわゆるアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが実践されているところですが、新たに文部科学省から「幼保小の架け橋プログラム」が提言されました。今後、このプログラムを具現化する中で必要なことが、幼保小の垣根を越えた、子ども同士、保護者同士、教職員同士、保護者と教職員間のつながりづくりを進めていくことであり、それが、就学前教育から義務教育へのなめらかな接続とともに、子どもや保護者のより一層の安心感へとつながると考えています。

記念講演や提案発表等を通じて、ご参会の皆様が幼児教育の未来について学びや思いを共有され、実り多き時間となることを願っています。

結びに、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の益々のご発展と、参会の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





## ～祝 辞～

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 箕輪 恵美

古くより日本有数の港湾都市として栄えてきた山口県下関市において、第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA園全国大会山口大会が、開催地の下関の皆様は対面で、全国からご参加の皆様はオンラインで、という新たな形で開催されますことを心よりお慶び申し上げます。コロナ禍が長引いておりますが、全国の国公立の幼稚園・こども園は、園同士のつながりを支えに歩みを止めることなく教育を続けております。各園・各都道府県及び全国のPTAも、横のつながりを糧に歩み続けておられることを心強く思います。子どもたちが成長するためには、私たち大人も成長し続ける。そのことが体現される大会となりますよう祈念いたします。

さて、私の勤務園は3年保育の幼稚園なので、現在在園している子どもと保護者は全員、コロナ禍で入園し、新しい生活様式の中で園生活を送ってきたこととなります。一方、世の中ではリモートワークが進み、人と人が会うこと、直接見たり聞いたりする機会が減りつつあります。今、幼稚園やこども園で喜々として遊んでいる子どもたちが社会に出る頃、生活の仕方や働き方はどのようになっているでしょうか。変化を恐れることなく、新たな発想力や的確な判断力・行動力で未来を心豊かに生きていくためには、幼児期に身近な人やもの、出来事に直接関わる中で、それらの力の素地となる体験を積み重ねることが重要です。とりわけ、幼児期に身近な大人と肌と肌を触れ合い、目と目を合わせ、言葉を交わしながら信頼関係を築くことは、人が人として生きていくための原体験として、改めて大切にしたいことの一つです。

物心ついたときから外出時はマスクが当たり前の生活を送ってきた子どもたちにとって、ご家庭でご家族と過ごすひとときは、何気ない会話を顔と顔を合わせて楽しめ、感じた思いを表情豊かに表現することやご家族の表情に一喜一憂することができ、心にたくさんの栄養がため込まれる、かけがえない時間になっていることでしょう。そのような中で育まれた親子の絆は、子どもたちが家庭から一歩外に出たときに、自分で考え判断するときの道しるべとなり、自ら行動する際の意欲の源になるはずです。本大会の主題、「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～」は、まさに、今の時代に大切にしたい親子像である、と言えます。私たち国公立の幼稚園・こども園の教職員も、この大会主題の言葉を心に留め、今まで以上に保護者の皆様、地域の皆様と折に触れて子どもたちのことを語り合い、子どもたちを取り巻く大人の絆をつくり、深め、PTAの一員として子どもたち一人一人の伸びやかな成長を保護者の皆様、地域の皆様とご一緒に支えてまいりたいと思います。

結びに、本大会の開催にあたり多大なるご尽力をいただきました全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会及び山口大会運営委員会の皆様へ心よりの敬意を表しますとともに、本大会開催にあたりご支援を賜りましたご関係の皆様へ感謝申し上げます。

## 第60回 全国国公立幼稚園・こども園P T A全国大会 山口大会 宣言文（案）

全国国公立幼稚園・こども園P T A連絡協議会は、1963(昭和38)年8月設立以来、全国国公立幼稚園・こども園P T Aの連絡提携を図り、幼稚園・こども園教育振興に関する諸問題を研究協議し、その進展充実を期することを目的として活動を続け、第60回目の全国大会を迎えました。

2020(令和2)年1月に日本で最初の新型コロナウイルス感染症が確認され、2年半以上が経ちました。その間には新しい生活様式、働き方の改革、教育環境の変化、これからはDX(Digital Transformation:進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること)の進展やSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)への取り組みなど、大きな変革の時を迎えています。全国の幼稚園・こども園の叡智を共有し、新たな次代の幼児教育に向けて検討・協議していきましょう。

第60回山口大会では、『見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～』を大会主題に掲げました。子供と深く関わり、親子の絆を密にし、次代を担う子供たちの未来に想いを馳せるP T A活動を創り上げることを目指し、次のことを宣言いたします。

- 一、幼児期における教育の重要性を広く社会に訴え、幼児教育の充実を目指します。
- 一、園・家庭・地域が連携を深め、次代を担う子供たちを健やかに育みます。
- 一、P T A活動を通じて自己研鑽に励み、家庭の教育力向上に努めます。
- 一、DXやSDGsを意識し、持続可能なP T A活動・園運営に努めます。
- 一、子供の安全確保と園の安全管理の強化に努めます。

令和4年8月6日

第60回 全国国公立幼稚園・こども園P T A全国大会 山口大会

# 表 彰

## ◇ 令和4年度 優良PTA文部科学大臣表彰

## ◇ 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 会長表彰

岡山県 猪木 直樹 様  
(全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 前会長)

東京都 小岩井 聡 様  
(全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 前副会長)

富山県 小川 恵 様  
(全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 前監事)

## ◇ 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 会長感謝状

新潟県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会





# 提 案 発 表

- \* 地域で育む子育てを目指して  
～長年培ったべっちゃんの子育て～

兵庫県 姫路市立 飾磨幼稚園  
令和元年度 P T A 会長  
宗實 真紀

- \* コロナ禍における P T A 活動の在り方と工夫  
～子どもたちの笑顔のためにできること～

島根県 安来市立 安来幼稚園  
令和4年度 P T A 会長  
小 山 稔

- \* みんなで育てるこどもの力 「自分で Try ふぞくっ子」  
～一人一人の個性を活かして～

香川県 香川大学教育学部附属幼稚園  
令和4年度 松韻会幼稚園 副会長  
河野 康子





## 地域で育む子育てを目指して ～ 長年培ったべっちょない子育て ～

姫路市立飾磨幼稚園

令和元年度PTA会長 **宗 實 真 紀**

### 1 はじめに

飾磨幼稚園は、兵庫県の南西部に位置し、南は瀬戸内海に面した自然環境に恵まれた姫路市にあります。

姫路市は人口52万人の中核都市で、日本で初めて世界文化遺産に登録された姫路城があります。また、屋台の練り合わせで有名な「灘のけんか祭り」など、五穀豊穡を願う古くからの伝統ある祭りが盛んで、祭りは、地域住民のコミュニティの場となっています。

市内には34園の市立幼稚園があり、魅力ある教育の発信に努めるなど、各園で特色ある教育活動を進めています。



### 2 本園の概要

飾磨幼稚園の歴史は古く、明治39年に婦人会が中心となり日曜日毎に始めた保育を前身として、明治44年に設立されました。平成17年には創立100周年の記念式典が、地域の方も交え盛大に挙行されました。

令和2年度からは3年保育が市内の6園で導入され、本園もその1園として3年間の幼児教育を推進しています。

令和3年度の園児数は、5歳児25名、4歳児25名、3歳児20名の計70名です。

### 3 飾磨幼稚園PTA活動について

○幼稚園とともに

飾磨幼稚園教育目標

し：自分で考え意欲をもってとりくむ子

か：感動を素直に表現できる子

ま：交わってのびのびと力いっぱい遊ぶ子

よりよい子供の育ちのために、保護者と幼稚園が同じ思いをもって、PTA活動に取り組んでいます。

○取組内容

・七夕まつり

幼稚園近くの神社では、盛大に夏祭りが行われています。たくさんのお店が並び、子供たちの中には家族で出掛け夏祭りを楽しむ子もいます。幼稚園でも同じような経験をさせてやりたいという保護者の思いから、保護者が中心となりお店を準備して七夕まつりを開いています。お店は、魚つり・くじびきなど、どの年齢の子供たちも楽しめるように保護者が企画しています。お店の発案から出店準



備などを通して、これまで交流の少なかった保護者同士も共通の話題があることで、コミュニケーションをとりやすくなり、親睦が深まっています。保護者同士の交流が深まることは、子育ての安心につながっています。また、お店巡りをして子供たちの喜ぶ姿を間近に見ることができ、保護者も充実感を味わっています。



#### ・おまつりごっこ

毎年10月に行われるおまつりごっこは、親も子も楽しみにしている行事の一つです。子供たちは地域の秋まつりが近づくと、机を運ぶ時には「ヨイヤサー」と声を掛け合ったり、バチに見立てた棒を持って太鼓を叩く真似をしたりして遊ぶようになります。園の周辺には、おまつりに必要な提灯や腕守りを手作りする伝統的なお店があり、園外保育でお店を訪れ、職人技を見学できます。地域の方には太鼓の指導にも来ていただき、子供たちが実際に太鼓を叩かせてもらうことで、おまつりごっこも盛り上がります。



おまつりごっこ本番では、地域の神社まで子供たちが安全に手作り屋台を担いでいけるよう、保護者や地域の方が見守っています。子供たちが生き生きと友達と心を合わせて屋台を担ぐ姿は、地域の伝統を受け継ぐ姿として保護者も頼もしく感じています。

#### ・姫路港ふれあいフェスティバル

毎年7月と10月に姫路港の重要性や海の魅力を発信する開港記念のフェスティバルが港で行われています。地元の幼稚園として飾磨幼稚園の園児も野外ステージでダンスや歌などを披露しています。休日ということもあり港までの送迎は保護者が率先して行い、子供たちの出演準備を手伝っています。市内外から集まった大勢の観客の前で堂々と披露する姿に子供たちの大きな成長を感じ、保護者は子育ての自信となっています。



#### ・SDGsへの取り組み

PTA役員が中心となり各家庭の協力を得て、古紙、アルミ缶回収・ベルマーク収集を行っています。集まった収益は、園の教育活動や環境の充実に活用しています。保護者がSDGsを意識した活動をすることで、子供たちも家庭において保護者と一緒に考えたり、ベルマークのついている商品を選んだりするようになってきました。親子で



SDGsに取り組むことが、持続可能な社会に向けて、未来を生きる子供たちの安心につながっています。



#### 4 様々なつながりを通して

飾磨幼稚園PTA会長となった私は、姫路市・西播磨地区・兵庫県それぞれのPTA役員も務めました。園内外での活動において、それぞれの地域の特色を生かした行事にふれ、先生方、PTA会員同士のつながりや連携ができるとともに、『一期一会を大切にしたい。幼稚園の取組について情報発信したい』という気持ちが高まり、子育て環境の改善に向けた活動や姫路市の子ども子育て会議などにおいて、幼稚園教育のよさをアピールする活動を積極的に行いました。姫路市教育フォーラム2019が開催された時には、子供の教育を社会全体で支援していこうとする機運を高めることに賛同し、姫路市立幼稚園連合PTA協議会の活動内容を広く発信するためのパネルを作成し展示することで、一般の方への理解を深めることができました。



大会は、PTA活動や園の教育内容の発信・紹介や会員相互の理解・研修を深める機会となっています。園長は園の教育実践を、PTAは日頃の子育てについて発表しています。幼稚園の広い園庭で伸び伸びと体を動かし、教師や友達と様々な体験を積み重ね、たくましく成長する姿に共感できることが多く、幼児教育への信頼や安心した子育てにつながっています。



#### 5 おわりに

飾磨幼稚園PTAが行ってきた活動は、保護者同士の交流の深まり、地域の見守り、ふるさとを愛する気持ち、未来に向けての安心した子育てにつながっています。

今、コロナ禍における生活の中でも、PTA活動を通して、希薄になっている人や地域とのつながりが深まり、保護者の視野も広がっています。どのような状況であっても、長年培った家庭や地域、先生方との連携が子供たちの学びを支えています。今後も、播州弁で大丈夫という意味の、べっちゃん子育てに、園や地域とともに取り組んでいきたいと思います。





# コロナ禍における PTA活動の在り方と工夫 ～ 子どもたちの笑顔のためにできること ～

安来市立安来幼稚園

令和4年度PTA会長 **小 山 稔**

## 1 はじめに

本園は、島根県の東部、鳥取県との県境に位置する安来市にあります。

安来市は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、そこを源流として中海に注ぐ飯梨川や伯太川などもあり豊かな自然にあふれています。

山陰における水陸の交通の要衝という、恵まれた地勢により花開いた文化と産業の伝統があり、どじょうすくい踊りで有名な民謡〈安来節〉、世界的シェアを有する高級特殊鋼産業、海外からも高い評価を受ける〈足立美術館〉などがあります。

## 2 園の概要

安来幼稚園は、大正12年に安来市婦人会による幼稚園として創立されました。



昭和3年に安来市立安来幼稚園と改称し、昭和13年に現在の場所に移転しました。

15年前には130名超の園児が在籍し、県内でも大型幼稚園として存在していましたが、年々園児数は減少し、現在は3・4歳児混合クラスと児クラスの2クラス編成で、全園児28名の園児が在籍

しています。

本園には広い園庭があり、安来市の花である桜やハナミズキの木陰では、夏の爽やかな風を感じ、また園庭に咲く季節の草花や鳥のさえずりに移ろう四季を感じながら、子どもたちがのびのびと遊んでいます。

また、夏野菜を育てる園の畑では、栽培や収穫を通した食育活動を行い、小さな生き物や虫たち



との出会いからは、命の大切さも学んでいます。

園の教育目標を「たくましく心豊かに伸びる幼児の育成」とし、互いに認め合う仲間作りを大切に教育を展開し、また、地域の方とのふれあいや、園外活動を通した直接体験、地域の伝統芸能の体験などを重視した活動に重点をおくなどした、ふるさと教育にも力を入れて取り組んでいます。



### 3 PTA組織について

安来幼稚園のPTA組織は、昨年度まで執行部、総務係、絵本係、運動会係、文集係の1部4係制で行っていました。

しかし、園児数減少による入園世帯減少により、これを維持することが困難となったため、今年度より執行部だけの体制として活動することと致しました。執行部の内訳は、会長1名、副会長2名、会計監査2名の計5名です。

### 4 PTA活動について

これまで安来幼稚園では、毎年、夏祭り、運動会、バザー等といったPTA行事を行ってきましたが、ここ2年余りは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施できない状況が続いていました。

しかし、今年度になって少しずつ活動を再会し、子どもたちや保護者の安心・安全に配慮した対策を取りながら実施しているところです。

今年度実施した活動は以下の2つです。

#### 《交通安全街頭指導》

春と秋の全国交通安全運動期間中にそれぞれ2日間、執行部員が園児と保護者に挨拶をしながら登園を見守りました。

春は滞りなく終わりましたので次回は秋に行います。



#### 《七夕祭り》

今年度、園から「夏祭りができない代わりに園の七夕祭りの中でPTAのブースを作って一緒にやりましょう」との誘いがあり、七夕祭りに特別出店という形で参加させていただきました。

催しについては、メンバーと協議をして、「スーパーボールすくい」と、「宝探しビンゴ」の2つに決めました。「スーパーボールすくい」は、金魚すくいの要領で、プールに浮かべた大小様々なスーパーボールをすくいます。

また、「宝探しビンゴ」は、数字の代わりに、年齢別の子どもたちに人気の絵本から絵を選び、それを園内のあちこちに貼って、子どもたちが主体になって探してもらうルールにしました。



ブースを回った確認は園の先生方に準備してもらった「おまつり券」にチェック欄を作ってもらい、裏面に貼ったビンゴカードと表裏揃ったものを回収して景品を渡すという形で行いました。

今年度、計画している活動は以下の通りです。

#### 《PTA園内環境整備》

2学期が始まる前の夏休みの終盤、園内や送迎で使用する駐車場スペースの除草作業、園庭の築山や砂場の整備、遊具の整理などを園の先生方と一緒にしています。



休日の早朝からの作業にも関わらず、保護者の方の出席率も高く、子どもたちのためにと協力していただけることに感謝しています。

きれいになった園庭で遊ぶ子どもたちの姿を見て嬉しく思います。



### 《わくわく運動会》

秋季の〈わくわく運動会〉では、運動会に必要な道具の準備やテント設営、競技中の先生方の補佐、運動会終了後の片付けなどを行います。



開催には様々な感染症対策を行います。

- ・参加は各家庭2名まで。
- ・検温、マスク着用、消毒
- ・競技内容の工夫、短時間での開催
- ・ソーシャルディスタンスの徹底
- ・観客席は設けず保護者は家庭毎に離れて観戦

など、環境整備同様に、各家庭の保護者の皆さんに協力していただきます。

一人ひとりの子どもたちの頑張っている姿を間近に見ることで成長を共に喜び合い実感できる運動会です。

### 《PTA文集》

安来幼稚園で長く続いている伝統あるPTA文集「小さな手」の作成です。

今年度、第50号となるPTA文集には、1年間の子どもたちの活動の様子や、一人ひとりの写真

入りプロフィール等を掲載します。この文集は、保護者には子どもたちの成長を楽しみに実感できるものであり、子どもたちにとっては、大人になった時に懐かしさと幼き日々を実感できるものでもあります。今年度もすでに執行部で準備を進めており、年度末の第50号発行に向けて、全員で作成にとりかかります。



## 5 課題とまとめ

PTA活動や園行事において、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、試行錯誤を繰り返す日々でした。

新型コロナウイルスの終息が未だ見えない中、感染のリスクを抱えながらも可能な限りの対策をして乗り切っておりますが、やはり、子どもたちの地域社会との結びつきや地域住民との交流、地域の伝統芸能に深く触れ合うことは少なくなっていてとても残念に思います。

地域のことをもっと知り、体験することによって、自分が暮らしているこの地、安来が好きになっていくと思いますので、子どもたちの笑顔のために一日も早く、安心・安全な日々が戻ることを願うばかりです。

また、安来幼稚園は、保育料無償化や新型コロナウイルス感染症の影響による減収・少子化等により幼稚園の入園を選んでもらえない現状があります。

幼稚園のPTA活動を少しでもアピールし、保護者の方に選んでいただけ、園児と共に楽しく充実した園生活ができるよう、今後も一生懸命取り組んでいきたいと思っております。





## みんなで育てるこどもの力

### 「自分でTry ふぞくっ子」

～ 一人一人の個性を活かして ～

香川大学教育学部附属幼稚園

令和4年度松韻会幼稚園副会長 **河野 康子**

#### 1 はじめに

香川大学教育学部附属幼稚園は、坂出市人口約5万人の市中心部にあります。坂出市は、保元の乱で敗れはしましたが、崇徳天皇が讃岐の地で過ごし、奉られている場所です。また江戸時代の後半から、遠浅を利用し、久米栄左衛門によって築造された塩田が栄え、昭和63年4月10日には瀬戸大橋が開通し、坂出市は四国の玄関口として知られるようになり、「歴史のまち・塩のまち・瀬戸大橋のまち“さかいで”」と言われております。

今では、工業も盛んとなり、歴史を残しつつも、新たに住みよいまちづくりが進んでいます。本園の周りに



も、学校がいくつか存在し、通りは、学園通りと呼ばれております。学校同士の交流も行われ、園児たちも、お兄さんお姉さんと遊べるときは、朝からワクワクしながら園生活を送っております。

#### 2 園の概要

本園は、昭和8年に香川県女子師範学校の附属幼稚園として、幼児定員30名で坂出の地に創立されました。昭和51年には、学級増として高松に高松園舎を増設し、坂出、高松それぞれが独自の教育課程を編成して幼児の教育を行ってきました。現在の学級数は、高松園舎を併せて3歳児

1、4歳児2、5歳児2の計5学級、幼児数は134名(R4.5.1現在)です。連絡進学により毎年約60名の卒園児を附属坂出小学校、高松小学校へ送り出しています。

#### 3 松韻会活動

附属幼稚園のPTA組織は、幼・小・中の3校園一体のPTA組織となり、松韻会と称されています。松韻会は、その3校園の保護者と先生で構成しています。附属坂出学園は連絡進学のため、PTAの皆さんがひとつになり、各学園内での行事に触れたり、合同の行事にも参加したりするなどして、子ども達の成長を見守っていきます。保護者の「絆」が学校を支える原動力であると考えています。

#### ※PTA活動紹介

##### ☆クラス新聞

春・秋の年2回、各クラスの新聞係さんが新聞を発行してくれます。子ども達が今何に興味を持っているか、何が好きなのか、毎回工夫を凝らしています。

保護者の皆様にも楽しんで作製してもらえよう、アイデアも自由に決めてもらっていますので、クラスごとにいろいろなデザインで仕上がっています。ワクワクする新聞です。新聞はクラス



全員と担任の先生に配布され、玄関にも掲示されます。

### ☆夕涼み会

7月第1週目の金曜日、バザー、ゲーム、お店など保護者企画による夕涼



み会が開催されます。浴衣姿に身を包んだ子ども達も歌や盆踊りなどを披露します。(R4年度は、7月8日に実施)



自分たちでお買い物したり、ゲームで遊んだりする中で、いろいろな気付きや学びを獲得しています。

子ども達の楽しい笑い声や笑顔でいっぱいになります。

### ☆土曜メンテナンス

附属坂出学園の保護者と子ども達のボランティア参加により、幼稚園のメンテナンスを年1回行います。R3年度は、コロナ禍の為、幼稚園の保護者・園児・児童のみで実施(R3.12.18)し、50名以上もの方々が参加してくれました。

園内をピカピカにすることで、大切に使いながら



### ☆保護者による絵本の読み聞かせ

年長さん、年中さんの各クラスごとに、月1回、絵本の読み聞かせを行っています。

毎回子ども達に絵本から学び、楽しんでもらえるようなものを選んで



お話をしています。

### ☆手作りおやつ

月に一度、保護者による手作りおやつを通して子ども達の充実した園生活のお手伝いを行っています。

アレルギー対応や、季節に合うおやつを考えるのも保護者同士勉強になっています。



### ☆県下一斉パトロール

年2回、7月と11月の月初めに、役員と年中の係さんが園門で立哨を行います。下校時に保護者と園児がルールを守って安全に帰れるように見守っています。



一生懸命右を見て左を見て手を挙げて、横断歩道を渡る園児の姿に成長を感じています。



### ☆カレーパーティ

年長さんが、園の畑で水やりや草抜きをして育ててきたジャガイモと玉ねぎを収穫し、実際に野菜を切る体験も行い、カレーを作って、幼稚園のみんなに振る舞います。年長さんの役員や常任委員が、そのお手伝いをしておいしいカレーを作ります。



その様子を年中さんや年少さんが、出来上がるまでずっと見守ってくれてる姿は、一つの家族のようです。



出来上がったカレーは、とても美味しいと言ってきて、どのクラスも完食でした。



### ☆ウェンディの会

保護者間の交流として文化部および体育部があります。園児だけではなく保護者同士が子ども達の様子など話したり交流したりできる場を設けています。

#### <文化部>

令和3年度は、坂出市立体育館で「子どもとできる軽い運動・ストレッチ」を実施し、感染対策をしながら、楽しく運動やストレッチを行いました。



#### <体育の部>

園内対抗のウェンディ杯ソフトバレーボール大会も実施しています。(R3年度は、コロナ禍の為中止)



令和3年度はコロナ禍(蔓延防止等重点措置期間)の為中止でしたが、以前は、坂出市PTAソフトバレーボール大会・ソフトボール大会に幼稚園チームとして毎年出場していました。



### ☆附属坂出学園運動会

例年、幼・小・中・特別支援学校の4校園合同の運動会が行われます。幅広い年齢の子ども達相互の関わりは、多くの気付きや学びがあります。総勢3,000人近く集まる運動会なので、スムーズな運営を行う為にも、松韻会では、警備やバザーなどで運営に協力しています。R2年度～R4年度はコロナ禍の為合同運動会は中止となりましたが、一日も早く合同運動会が再開できることを楽しみにしています。

### ☆OYG(おやじ)の会

お父さん達を中心となり、園庭で親子遊び、小学校のプールを利用した水遊びなど、毎年、子ども達のために新しい企画を考え実施しています。近年は、コロナウイルス感染拡大のために実施できていません。



## 4 地域との連携

★毎年、夏の風物詩である「さかいで大橋まつり」の総おどりに松韻会「附属坂出学園」の連として参加しています。(R2年度～R4年度は、コロナ禍の為中止)

★「読み聞かせの会」の方が、学期に1回、園に来てくれて全クラスを対象に絵本の読み聞かせをしてくれます。



★隔年で12月頃に、坂出のライオンズクラブさんが園に来てくれて、餅つき大会を行います。保護者の方もお手伝いし、子ども達は笑顔でいっぱいです。コロナ禍のため今年度12月、3年ぶりに実施予定です。

## 5 結びに

坂出附属学園は、保護者と先生方が一体となり、日々子ども達の成長を見守っております。また、地域の方々にはたくさんサポートしていただいております。近年は、新型コロナウイルス感染拡大の対応で行事等も中止に見舞われましたが、周りの方々に感謝しながら、子ども達の園生活を多くの学びと喜びに満ち溢れるよう、できないではなく、どうやったらできるのかを考えながら、PTA活動を行っていきたいと思います。

